



平成 27 年 11 月 4 日

各 位

会 社 名 J Xホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 内田 幸雄
 コード番号 5 0 2 0 東証・名証第 1 部
 問合せ先 財務 I R 部 I Rグループ マネージャー
 日暮 達也
 (電話番号 03-6275-5009)

**平成 28 年 3 月期 第 2 四半期累計期間の連結業績予想と実績との差異
 及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ**

平成 27 年 7 月 31 日に公表した平成 28 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結業績予想数値と本日公表の実績値において差異が生じたのでお知らせいたします。

また、最近の業績の動向を踏まえ、平成 27 年 5 月 11 日に公表した平成 28 年 3 月期通期連結業績予想についても、修正しましたのでお知らせいたします。

記

**1. 平成 28 年 3 月期 第 2 四半期累計期間の連結業績予想数値と実績値との差異
 (平成 27 年 4 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日)**

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半 期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A) (平成 27 年 7 月 31 日発表)	4,730,000	115,000	140,000	70,000	28 円 15 銭
実 績 (B)	4,552,555	△45,450	△27,665	△44,945	△18 円 8 銭
増 減 額 (B - A)	△177,445	△160,450	△167,665	△114,945	△46 円 23 銭
増 減 率	△3.8%	-	-	-	-
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 27 年 3 月期第 2 四半期)	5,442,426	14,266	41,990	17,659	7 円 10 銭

2. 平成 28 年 3 月期 通期連結業績予想数値の修正 (平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主 に帰属する当 期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成 27 年 5 月 11 日発表)	9,660,000	250,000	310,000	160,000	64 円 35 銭
今回修正予想(B)	9,350,000	110,000	150,000	45,000	18 円 10 銭
増 減 額 (B - A)	△310,000	△140,000	△160,000	△115,000	△46 円 25 銭
増 減 率	△3.2%	△56.0%	△51.6%	△71.9%	△71.9%
(ご参考)前期実績 (平成 27 年 3 月期)	10,882,460	△218,885	△150,114	△277,212	△111 円 49 銭

3. 第2四半期累計期間の連結業績予想数値と実績値との差異及び通期連結業績予想修正の理由

(第2四半期連結累計期間の連結業績予想数値と実績値との差異の理由)

第2四半期連結累計期間においては、原油価格の下落等により、売上高は前回予想（平成27年7月31日発表）を下回る結果となりました。営業利益につきましては、原油価格の下落に伴う在庫影響の悪化等により予想を大きく下回る結果となりました。これらを受けて、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、予想を下回る結果となりました。

なお、在庫影響を除いた経常利益相当額は、原油価格の下落を受けた石油製品マージンの縮小のほか、銅価下落による金属資源部門における減益等により、前回予想比290億円減益の910億円となりました。

	前回発表予想 (A)	実績 (B)	増減額 (B-A)
在庫影響	200	△1,187	△1,387
在庫影響を除いた 営業利益相当額	950	732	△218
在庫影響を除いた 経常利益相当額	1,200	910	△290

※総平均法及び簿価切り下げによるたな卸資産の評価が売上原価に与える影響

(通期連結業績予想修正の理由)

売上高は、原油価格の下落により、前回予想（平成27年5月11日発表）比3.2%減の9兆3,500億円となる見通しです。

原油価格の下落に伴う在庫影響の悪化等により、営業利益は前回予想比1,400億円減益の1,100億円、経常利益は前回予想比1,600億円減益の1,500億円となる見込みです。

なお、在庫影響を除いた経常利益相当額は、原油価格の下落を受けた石油製品マージンの縮小のほか、銅価下落による金属資源部門における減益等により、前回予想比600億円減益の2,300億円となる見通しです。

上記により、親会社株主に帰属する当期純利益は前回発表予想から減益となる見通しです。

	前回発表予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (B-A)
在庫影響	200	△800	△1,000
在庫影響を除いた 営業利益相当額	2,300	1,900	△400
在庫影響を除いた 経常利益相当額	2,900	2,300	△600

※総平均法及び簿価切り下げによるたな卸資産の評価が売上原価に与える影響

本見通しは、通期平均で原油価格（ドバイ原油）；バーレル当たり53ドル（下期50ドル）、銅の国際価格（LME価格）；ポンド当たり243セント（下期230セント）、円の対米ドル相場；121円（下

期 120 円) を前提としております。(前回予想：原油価格；バーレル当たり 60 ドル、銅の国際価格；ポンド当たり 270 セント、円の対米ドル相場；115 円)

(注) 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、(1) マクロ経済の状況又はエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化、(2) 法律の改正や規制の強化、(3) 訴訟等のリスクなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

以 上